

全国文学館協議会共同展示「3.11文学館からのメッセージ」

大地と海がゆれるとき —福井ゆかりの作家が描いた地震—

福井ゆかりの作家による、東日本大震災(2011年)、福井地震(1948年)などの地震について描いた文学作品を紹介します。

期間:2月18日(金)～4月10日(水)

項番	作家	種別	資料名	発行年	発行者
1	中野重治	書籍	『おばあさんの村』	1957	岩波書店
2	中野鈴子	書籍	『中野鈴子全詩集』	1980	フェニックス出版
3	岡部文夫	書籍	『運河』	1949	新協出版社
4	岡部文夫	自筆資料	「雪の夜のふかぶかとしてしづけきにふたびの地震ゆりつつすぎる」(展示:2月18日～3月23日)	—	—
5	岡部文夫	自筆資料	「震源はいつくならむか雪の夜の明かきに地震の揺りてすぎたる」(展示:3月25日～4月10日)	—	—
6	多田裕計	書籍	『小説芭蕉』	1964	学習研究社
7	伊藤柏翠	書籍	『虚子先生の思い出』	1995	天満書房
8	吉村昭	書籍	『三陸海岸大津波』	2004	文藝春秋
9	津村節子	書籍	『星祭りの町』	1996	新潮社
10	津村節子	書籍	『三陸の海』	2013	講談社
11	有明夏夫	書籍	『俺たちの行進曲』	1981	文藝春秋
12	有明夏夫	自筆資料	『俺たちの行進曲』執筆資料 (3月25日に内容を変更します)	—	—
13	俵万智	書籍	『チョコレート革命』	1997	河出書房新社
14	俵万智:短歌 山中桃子:絵	書籍	『あれから 俵万智3.11短歌集』	2012	今人舎
15	宮下奈都	書籍	『はじめからその話をすればよかった』	2013	実業之日本社
16	宮下奈都	書籍	『ふたつのしるし』	2014	幻冬舎

